

じびか歳時記

「月の舟で天の川を渡ろう号」 vol 43号

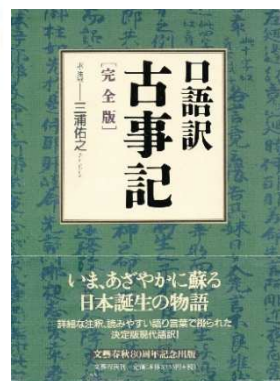
今回は、「きりしま月の舟」を紹介します。

毎月の職員とのミーティングでは、「ヒヤリハット」の報告を出し合い、大きな医療ミスに至るのを未然に防ぐ工夫をしています。そして、患者からの苦情などを取り上げ、みんなで話し合い解決策を見つける努力をしています。そこで、今回のじびか歳時記では「もりやま耳鼻咽喉科」をもっと良くするためにはどのようなことをしたらよいか、考えてもらいました。

さて、新型コロナのマスク規制が少し緩やかになって来て、室内でも身体的距離が保てる場所（約2メートル）やほとんど会話をしない場合でのマスク着用は必要がなくなりました。そのため、これまでネット会議がほとんどだったのですが、今回対面でのお話が聴けるということで、4月17日と6月19日に「きりしま月の舟」にお邪魔して、「古事記」の勉強をしてきました。内容は、前半は原口耕一郎先生の「古事記と日本書紀」で、後半は三嶽きみこ先生の「古事記を読む」でした。

今年2月に霧島神宮の本殿、幣殿、拝殿が国宝に指定されましたが、月の舟はその霧島神宮から歩いて7分、霊験あらたかなパワースポットの余波がすぐそこまで漂ってきそうな場所にあります。室内は本に囲まれ、読書環境が最適な喫茶店風のお店です。美味しいランチとコーヒーを楽しめます。6月19日は、コーヒー、紅茶、ケーキをいただきながら古事記の講演を拝聴するという至福の時間を過ごしました。

古事記は、神代篇、人代篇（上）、人代篇（下）の3部から成り立っています。講義を受けたのは、神代篇です。此処で古事記の内容に触れると紙幅が足りませんので、代わりに口語訳古事記【完全版】三浦祐之訳・注釈【文藝春秋】と楽しい古事記：阿刀田高著【角川文庫】を紹介します。少しでも古事記に興味をもってください、天孫瓊杵尊（てんそんににぎのみこと）をお祀（まつ）りしている霧島神宮近くの「月の舟」のことを気にかけていただければ幸甚に存じます。



より良い病院作りの為に…各自の取り組み・課題！！



・初めて訪れる施設、お店に行かれた際少し緊張し不安を持ちながらうろろしてしまう事がありその時スタッフから声かけられ疑問に思ったことを丁寧に説明されたりしたらとても気持ちよく買い物できた記憶があります。私も患者様に気持ちよい対応が出来るような雰囲気作り、積極的に声かけし「来てよかった！」と思えるよう心を込めて取り組んでいきたいです。

・まずは、元気に挨拶！それから笑顔！忙しくてもバタバタしない。患者様が話しかけやすい雰囲気を作る。初心に返り、院長と患者様の話を一緒に聴く、そうすることで安心安全な医療を行っていきけるのではないかと思います。

・私自身、病院を受診した際にはその病院の雰囲気、看護師さんや受付の方の患者さんへの対応を見てしまいます。ですから、私も誰かにいつも見られているという意識を持って受付に立つことを心がけています。忙しい時でも笑顔で丁寧に思いやりのある言葉をかけたり、患者様の体調の変化にも気付ける余裕が持てたらと思います。まだまだ未熟です、、、もりやま耳鼻科に来た一人でも多くの患者様に次もまた来たい！と思って頂けるような病院にしたいです。

・「清潔感」「接客」を大事に！定期的に行っている掃除を丁寧にいき、新型コロナウイルス対策として、ドアノブや、器機のボタンなど、手が良く触れる箇所のアルコール消毒を徹底し、安心して来院して頂けるようにします。また、笑顔を忘れず、安心して治療を受けて頂くため、丁寧な説明を行い、またお一人お一人の気持ちに寄り添えるよう、患者様のお言葉に耳をしっかりと傾けることを心がけていきたいです。

・今までの医療機関は体調が優れない患者さんが受診される場で、スタッフは、それを迎える受け身的なイメージでした。情報過多・セカンドオピニオンも一般的になる現在、受診される患者さんの家族や知り合いの方も足を運んでくださるような対応を心掛けたいです。

・「電話対応」は顔が見えないので自分の声をいつもよりワントーン上げて話す。ゆっくり丁寧に話す。相手の要点を出来るだけ短い時間に的確に理解し、復唱し、先生・看護師さんに伝える。どんな時も目の前の患者様の対応を一番に、親切・丁寧を忘れずにしたいと思います。

